

◆ 今週のコメント

- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(女児, 3歳)あります。感染症法において, 平成25年4月1日から五類感染症(全数把握感染症)に追加されて以降, 初めての報告となっています。症状は発熱・痙攣・菌血症です。推定感染地域は国内で, 推定感染経路は不明です。
- ・ 流行性角結膜炎の定点当たり報告数は0.90(9例)で, 前週1.10(11例)より減少したものの, 依然として過去5年平均値を上回っています。行政区別では, 右京区(5例), 伏見区(4例)です。

◆ 今週のトピックス:<風しん>

- ・ 風しんの報告が7例(男性4例(20歳代 2例, 30歳代 1例, 40歳代 1例), 女性3例(30歳代 1例, 40歳代 2例))あります(第17週追加報告分 1例含む)。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数1例】
- ・ 五類:風しん(検査診断例 2例, 臨床診断例 5例) 7例(第17週追加分 1例含む)【1月以降の累積報告数 39例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	1. 60	109
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4. 49	184
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0. 80	33
	③ 水痘	0. 63	26
	④ 突発性発しん	0. 27	11
	⑤ 手足口病	0. 07	3
眼科	流行性角結膜炎	0. 90	9

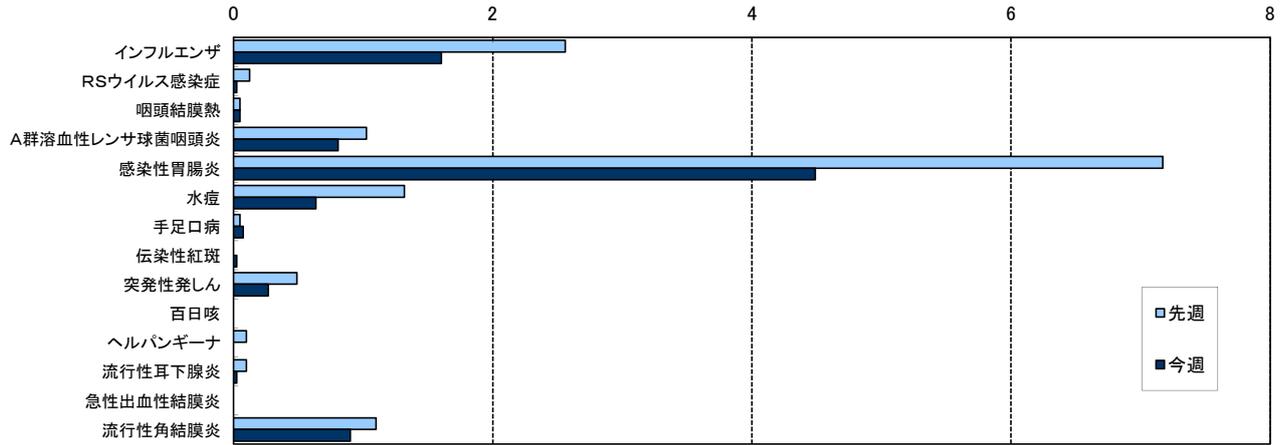
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<風しん>

(注) 京都市のデータは, 平成25年5月9日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

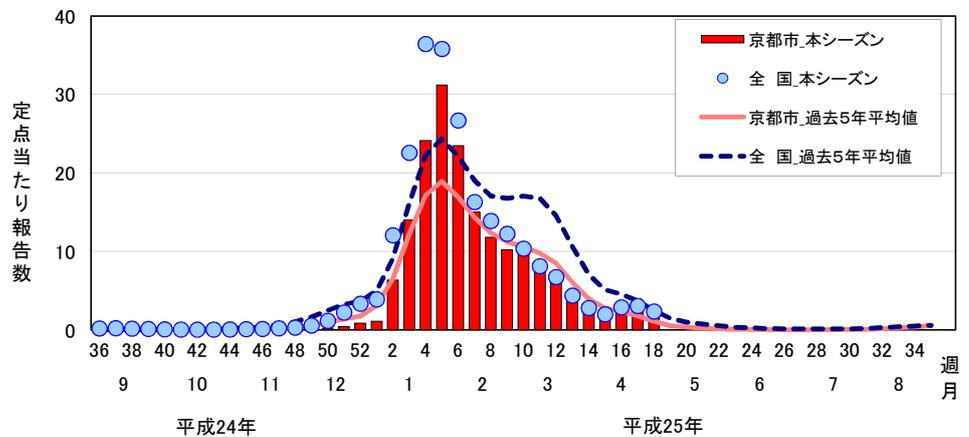
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第18週)と先週(第17週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

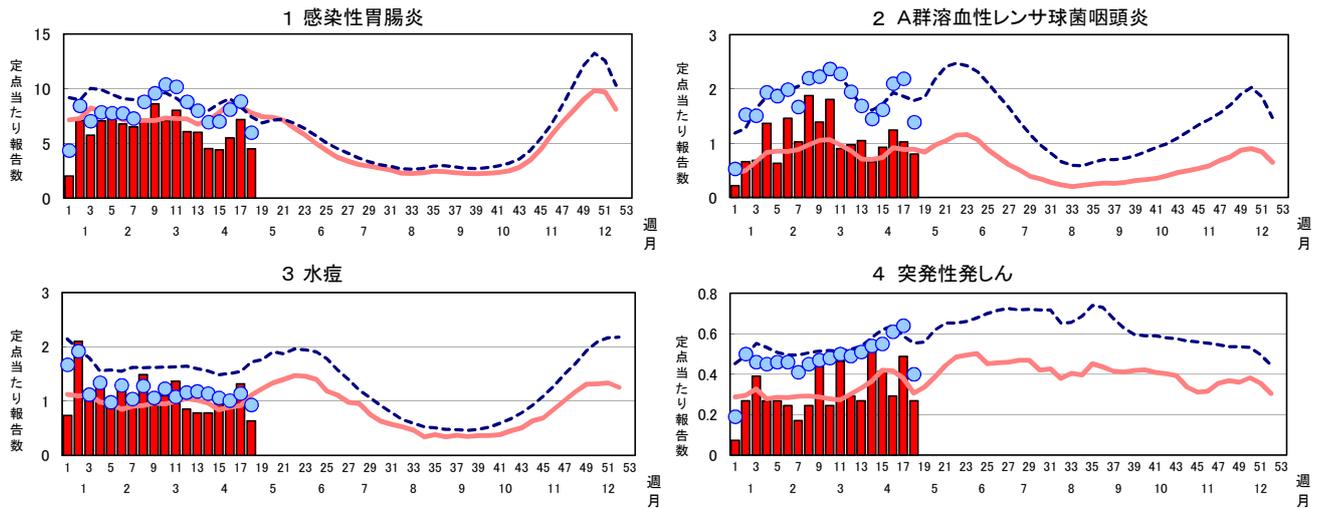
週	報告数(例)
第14週	171
第15週	135
第16週	188
第17週	174
第18週	109
累積報告数 (第36週以降)	12,035



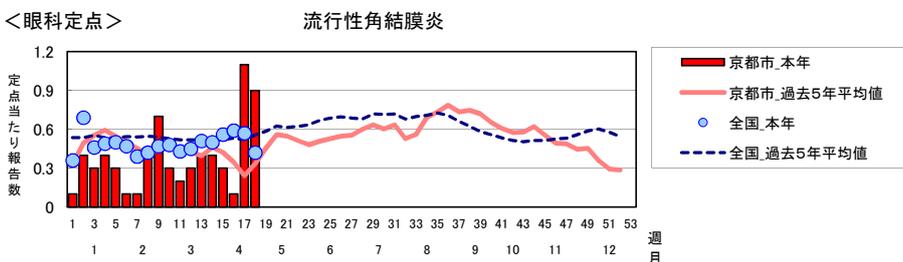
*平成21年/22年シーズンは、インフルエンザ(H1N1)2009の影響で、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第18週(4月29日～5月5日)トピックス:<風しん>

風しんの報告が7例(男性4例(20歳代 2例, 30歳代 1例, 40歳代 1例), 女性3例(30歳代 1例, 40歳代 2例))あります(第17週追加報告分 1例含む)。第9週(2月25日～3月3日)から10週連続の報告です。本年の累積報告数は39例となっており, 風しんが定点把握疾患から全数把握疾患に変更(平成20年)以降, 最も多かった平成24年の累積報告数(26例)を大きく上回っています。全国の累積報告数も6,029例と平成24年(2,391例)と比べて, 約2.5倍となっています。今後の動向にご注意ください。

京都市の性別年齢群別累積報告数は, 男性 28例, 女性 11例で, 男性は20歳代～40歳代の報告数が多くなっています。女性は20歳代が5例と多く, そのワクチン接種歴は, なしが2例, 不明が3例です。

都道府県別累積報告数は, 本年は東京都, 大阪府, 神奈川県に多くなっています。

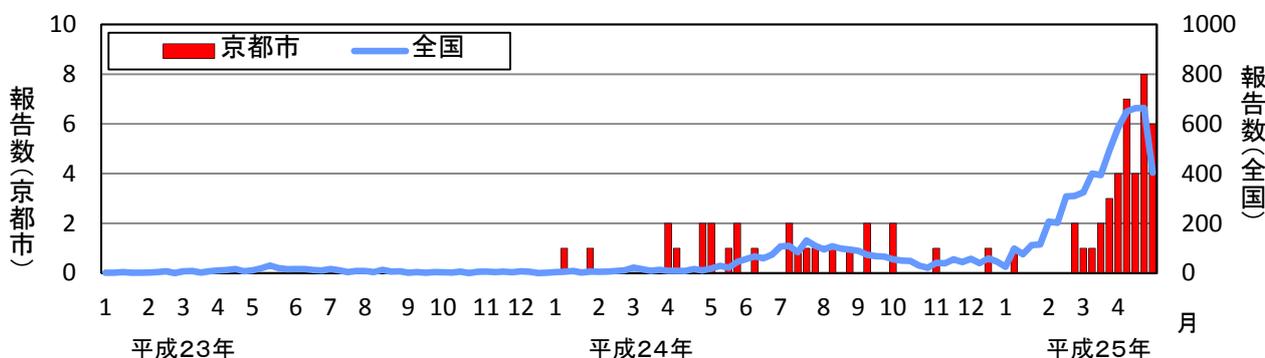
京都市が実施するMRワクチン定期予防接種の協力医療機関については, 下記をご覧ください。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000130799.html>

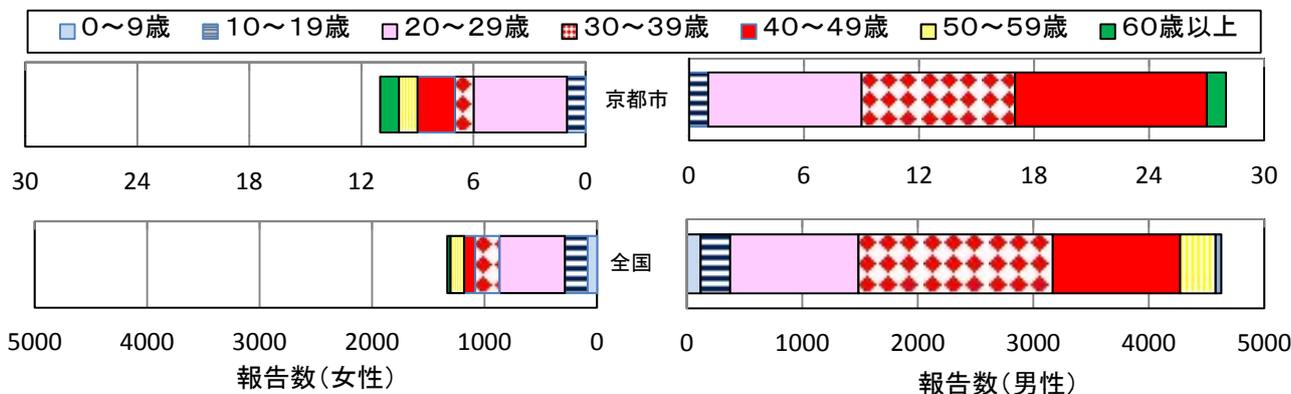
風しんの届出基準及び届出様式は, 下記をご覧ください。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000043726.html>

京都市及び全国の報告数の推移(平成25年5月10日現在)



平成25年性別年齢群別累積報告数



平成25年都道府県別累積報告数(平成25年5月10日現在)

